



8

並べているが、児童の反応がよく、ファッションやクッキング、漫画などの記事をよく見ている。上学年の児童は、河北新報の小説や子ども新聞に掲載されるパズルの記事を楽しみにしているなど、児童の関心の高さがうかがえたことから、さらに児童の興味を引き出す環境整備に努めていきたい。

実践を紹介している。これらの実践を継続し、児童が新聞を読むようになることで、以下のような効果を期待している。まず、書かれてある内容を読み取る力が高まること。そして、知りたい情報を入手する手段として活用できること。さらに、自分の考えを発信することに興味・関心を高め、投書や新聞コン

クール応募などの実践意欲が高まることである。

今後のNIE実践を通して、新聞を活用できる力を児童に培っていきたい。

(豊里小教諭 菅原洋一)

宮城県内のNIE実践指定校11校の担当教員が、活動や成果を報告します。各月第一週に掲載します。

学びの成果を新聞に

本校の児童は、活字で書かれている内容を正しく読み取る力を伸ばすために、授業で音読や言葉の学習に取り組んでいる。さらに読解力を高めることを狙いに本年度からNIEの実践にも取り組み始めている。

まず、児童の新聞への関心度を調べたところ、新聞を読んだ経験に乏しく、どんな記事が載っているか知らないといった児童が多かった。そこで、新聞を手にとって自由に見ることのできるコーナーを設置し、壁面に児童の興味・関心を引きそうな記事を抜粋して貼り出すことで、記事を読む機会を増やしている。

全国紙の脇に小学生新聞を

を壁面に掲示し、全校児童に

授業では、修学旅行や校外学習の学びの成果を新聞にまとめる学習が、4～6年生で継続的に行われている。また、6年生は総合的な学習の時間に登米市の歴史について調べたことを新聞にまとめ、発信している。

毎年、同じ校舎で学ぶ中学生の作成した修学旅行新聞が廊下に掲示されていて、小学生により影響を与える環境にある。本年度は、上学年で実践してきた「写真探し」や「見出しを付けよう」の取り組みを壁面に掲示し、全校児童に

登米市豊里小

メモ 児童338人。田辺昭浩校長。2007年、校舎一体型小中一貫校としてスタート。8月には登米市のよさこい祭

りに多くの児童が参加し、地域の方と一緒に盛り上がる。登米市豊里町上町裏100。



紙面から秋に関する写真を探し、切り抜く児童